

プレスリリース 2020年10月 ソーシャルワークと社会開発に関するグローバル・アジェンダ

IASSW/ICSW/IFSW¹

ダブリン世界会議 2018 で開始された協議の結果、国際ソーシャルワーク学校連盟、国際社会福祉協議会、国際ソーシャルワーカー連盟の指導者は、2020年10月1日に開催された三者会議の中で、「Global Agenda for Social Work and Social Development 2020-2030」の枠組みと2020-2022年の第1テーマを採択しました。

残りの4つのテーマを明確にするために、上記の国際機関は、パンデミックやその他の進展の影響を考察する時間を確保するために、2021年に協議を継続することを決定しました。

グローバル・アジェンダに関するプロセスの最初の10年間は、ソーシャルワークと社会開発に統一的に取り組む焦点を示し、次の10年間の枠組みをさらに発展させるための基礎を築きました。

IASSW の会長であるアンナマリア・カンパニーニは次のように述べています。「IASSW は、新しいグローバルな社会契約を体現する包摂的な社会変容を共同構築するために、ソーシャルワークの教育機関、ソーシャルワーク教育と研究を結びつけることによって、グローバル・アジェンダの次の段階への継続的なパートナーシップにコミットしています。」

ICSW の会長である Eva Holmberg-Herrström は、「パンデミックは、今こそ持続可能な世界における公衆衛生と福祉のための新しい社会契約の時であることを私たちに示してくれました。グローバル・アジェンダは、このプロセスにおける私たちの中核となる貢献です」と述べています。

IFSW のシルヴァナ・マルティネス会長は、「過去10年間、グローバル・アジェンダは、ソーシャルワーク専門職を統一する力として機能してきました。それは、社会的・経済的平等、すべての人々の尊厳と価値の認識、地域社会と環境の持続可能性の促進、人間関係の重要性という原則に基づき行動するため、私たちを団結させてきました。第2の10年を迎えるにあたり、私たちのコミットメントはこれらの原則に基づいています。長年のパートナーと新たな IFSW パートナーは、2020年から2030年の包括的な枠組みを「包摂的な社会変容の共同構築」とすることを確認しています。この枠組みは、すべての人々が平等に扱われ、歴史とその未来の主役になれるような、新しい社会構築のビジョンである、世界で起こる重要な変化の必要性を認識しています。2020年から2022年までの最初のテーマは、この枠組

みの基礎を築くものです。“Ubuntu, I am because we are.” これは、すべての人々の生活と未来が絡み合い、私たちの運命がつながっていることを認識するものです。この枠組みを立ち上げることで、私たちはすべてのコミュニティが社会的に公正な新しい世界を共同で構築するため、その役割を認識・遂行することを願い、次の10年間の行動にコミットしていきます。

ソーシャルワークと社会開発のためのグローバル・アジェンダ 2020-2030年に向けた枠組み

包摂的な社会変容の共同構築

グローバルに、国そして地域において、ソーシャルワークと社会開発の専門職は、私たちのパートナーと共に人々、コミュニティ、そして各種の社会運動と積極的に協力し、10年間のアジェンダである**包摂的な社会変容の共同構築**を前進させます。

私たちは、すべての国々で活発なメンバーを擁するグローバルな組織として、すべての人々の強みを称え、持続可能な開発をリードするために彼らの積極的な役割を促進することを認識し、コミットします。私たちは、人々と環境のために繁栄するコミュニティと社会を共同設計し、共同構築するために協力することを約束します。

すべての人々の声を聴き、特に疎外されがちな人々の積極的な参加を促進することは、ソーシャルワークと社会開発の専門職の核心であり、包括的な社会変容を共同設計し、共同構築するために不可欠です。

これには、国家的にもグローバルにも、すべての人々の普遍的な権利、機会、自由、そして持続可能な幸福を促進するような、政府と人々との間の新しい社会的合意の形成が含まれます。

すべての人のための新しいプラットフォームと空間を開拓し創造するにあたり、ソーシャルワークと社会開発の役割は、新しい社会的合意の形成のために極めて重要です。グローバル・アジェンダ2020-2030は、こうしたコミットメントにもとづいています。

グローバル・アジェンダは、10年間の5つのテーマ（2年ごとのテーマ）で構成されています。このタイミングで、タスクフォースは2020年から2022年の第一のテーマ（柱）を提案します。

他の4つのテーマを決定するためのプロセスは継続されます。

第1テーマ 2020-2022

「Ubuntu:社会的連帯とグローバルなつながりを強化する」

解説

倫理原則にもとづき、ソーシャルワークと社会開発の実践者と教育者は、人とコミュニティとシステムを結び、持続可能なコミュニティを共同で設計し、共同構築し、包摂的な社会変容を促進するという本質的な役割を担っています。

社会的連帯を強化し、グローバルな（地球規模の）つながりを認識するための原則としてのUbuntuは、すべての人々と環境との間の責任を強調する、共有された持続可能な未来のための根幹ともいえるものです。それは、政府と政府が仕える人々との間の新しい社会的合意を形成する包摂的なプロセスを促進するための基礎を築きます。新たな社会的合意は、国、地域、世界のすべての人々のために、普遍的な権利、機会、自由、そして持続可能な幸福を促進することを目的としています。

Ubuntuは、ネルソン・マンデラによって世界中に普及し、一般的には「我々が存在するから、私も存在する」という意味と解釈されています。すべての人々とその環境との相互のつながりというソーシャルワークと社会開発の視点に共鳴する言葉、概念、哲学です。Ubuntuはまた、土着の知識と知恵を強調し、私たちは、テーマである「我々が存在するから、私も存在する」を推進するために、同義の言葉や概念をあなたの文化で語るすべての国や人々を歓迎します。

注

1 「グローバル・アジェンダ」は、国際ソーシャルワーク学校連盟（IASSW）、国際社会福祉協議会（ICSW）、国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）、の共同イニシアチブである。